はっけん

2019 年 4 月発行
九州手話サークル
連絡協議会

新元号「令和（れいわ)」が発表されました。

万葉集にある「初春の令月にして　気淑く風和ぎ　梅は鏡前の粉を披き　蘭は珊後の香を薫す」文言から引用したものだそうです。そして、この「令和」には、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味が込められているそうです。

さて、今回、九州各県から研修会、耳の日イベントはじめ各種事業のレポートをいただきましたので、ここにご紹介いたします。

【大分県】

大分市聴力障害者福祉会創立 70 周年記念大会

3 月 10 日（日)、大分市聴力障害者福祉会創立 70 周年記念大会が、市内のホテル豊の国で開催されました。参加者は、100 名を超えていました。

第一部式典では、第 11・13 代と会長を務められた小倉千萬基氏の長年の功績に対し表彰状が贈られました。

第二部はミニ講演と題し、小倉氏が自身の経験を語ってくださいました。耳の日大会の担当になったが方法が分からず、先輩に助けられたこと。手話通訳者がいない時代、病院に行くのにも苦労したこと･･･等々。

そして、最後に語った事は「これからも、聞こえない人、難聴者も同じ。手話通訳者等も協力し合って活動を続けて欲しい」という願いでした。参加者は、時に笑い時に懐かしみながら、小倉氏の語りを観ていました。

昭和 23 年「大分市ろうあ文化会」として発足して 70 年。70 年と一言でいうのは簡単ですが、聴覚障害者の福祉向上のため、並々ならぬ苦労があったことは想像に絶するものがあります。会員の皆様の、今も尚、情熱を持って活動する姿に頭がさがります。

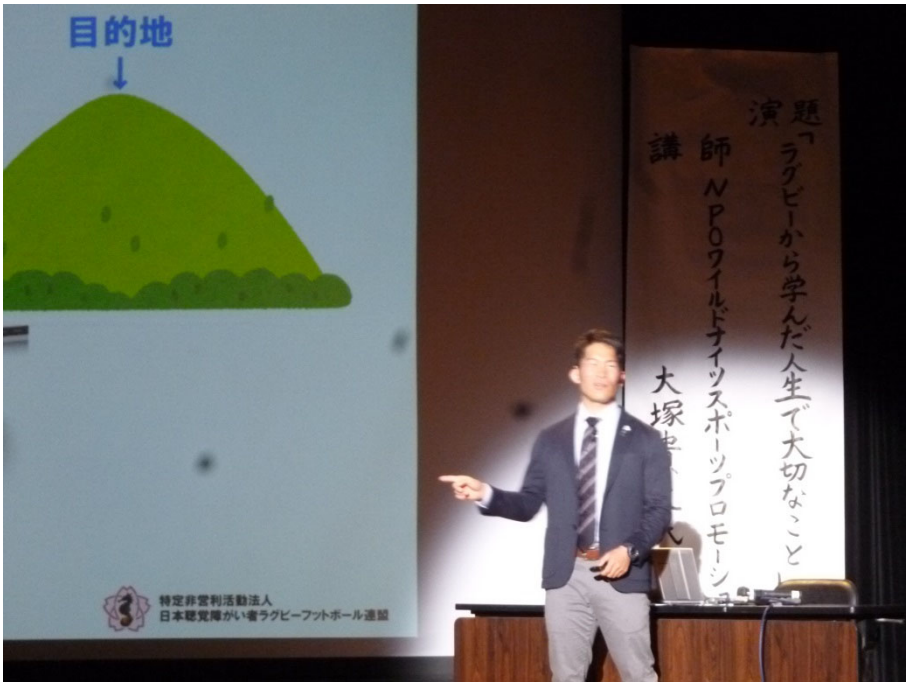
大分県　手話サークルはぐるま昼の部　吉川順子

大分県耳の日集会 in うすき　　(H31.3.3)

今年も耳の日に合わせた大会が、参加者約４００名のもと臼杵市野津町で開催されました。昭和３６年に始まった「耳の日記念大分県ろうあ者福祉大会」は、昨年の５０回目を節目に、今年からは「大分県耳の日集会」として新しいスタートを切りました。これまで式典の中で行われていた会務報告や大会宣言、大会決議も、今年は活動方針を示すだけのスマートなものになりました。式典の後は、保育園児の元気いっぱいのダンスと抽選会で午前が終了しました。
お昼からは、地元出身のデフラガーマン大塚貴之さんが「ラグビーから学んだ人生で大切なこと」と題してお話ししてくださいました。耳が聞こえないというハンディと向き合いながら、ラグビーに情熱を注いできた彼の話しに会場の参加者は魅了されっぱなしでした。とても有意義な３月３日でした。
開催準備をしてきた地元臼杵聴覚障害者協会や協力手話サークルの皆さん、おつかれさまでした。

大分県　手話サークル「ひじ」事務局　川野順二

ダンスする保育園児たち



講演する　　大塚貴之さん

【佐賀県】

第 59 回耳の日記念の集い（佐賀県）

平成 31 年 3 月 10 日（日）武雄市北方公民館で開催されました。当日は、前夜からの雨が残り、足元の悪い中での集いとなりました。

平成最後の集い、そして昨年９月 25 日に「佐賀県手話言語と聞こえの共生社会づくり条例」が制定されての最初の集いでした。

記念講演。アメリカ出身のマーティン・デール-ヘンチ氏による「日米ろう文化の違い」。
マーティン氏は先天性の聴覚障害者でご両親は健聴者です。お二人は手話に対する理解が深かったのですぐ手話の教育が始まったそうです。
その後、普通校に通ったところ　そこでは１０～１５人のろう者に対し７～８人の手話通訳がついての勉強で、その費用は州政府が全額負担するそうです。日本の取り組みとは大きな違いがあることが分かりました。
大学は、ろう者のために設立されたギャローデッド大学に進学。アメリカのろう教育の起源、その後の歴史を学び、今回の講演で日本や他国への影響等を詳しく説明されました。
また、来日した時のカルチャーショックや日常生活でのマナーの違いを体験したこと、たとえば、友達との会話の途中で机を叩いて笑うと「マナーが悪い」と注意を受けた事もあったそうです。

来日されて６年、講演はすべて日本の手話で進められました。講演途中でアメリカ手話での数字を参加者全員で練習し、日本の手話との違いに少し戸惑いながらも　みんな楽しく表すことが出来ました。
アトラクション。最初に、琉球國祭り太鼓。琉球の衣装を身にまとった子供たちが太鼓を叩く姿は、かわいらしく力強いものでした。途中、参加者数人がステージに上がり、太鼓の演奏をしたりと楽しむこともできました。

大道芸フーミンさん。集いが始まるまでの短い時間に会場に現れ、参加者に手話を教えてもらうなど交流を持たれていたのも嬉しく思いました。長い長い足の種明かしから始まり、皿まわし、ジャグリング、マジック等、リズミカルなパフォーマンスに会場は湧き上がっていました。
そして、手話コーラス。西部聴覚障害者協会会員及び西部地区手話サークルの分かりやすく心温まる手話歌でした。つい、私も手が動いていました。

毎年開催される耳の日の集い、この集いを支え、活動をしてこられた実行委員の存在は大きいです。会場の外で、無事に集いが終了する事を願いながら、手話をより身近なものにするために書籍の販売やイベントの掲示をされていたことも心に残りました。
来年、「第 60 回耳の日記念の集い」は佐賀市で開催されます。「第 60 回」という節目です。沢山の参加者で開催されることでしょう。

佐賀県　手話サークルむつごろう　山口　光江

【長崎県】

第５０回耳の日福祉大会 in いさはや

２０１９年３月３日(日)、諫早市中央公民館（市民センター）において、
第５０回「耳の日福祉大会」が開催された。第一部と第二部に分かれており、
第一部は来賓をお招きしての式典。第二部は、講師を迎えての講演会でした。
第二部、今回は講師に NHK 手話ニュースキャスターや明晴学園、明晴プレスクールめだか（児

童発達支援事業）の管理者をされている「小野広祐氏」を迎え、『生まれ変わってもろう者になりたい』というテーマで講演をしていただきました。とても有名な方なので県内から多くの参加者がありました。

・日本手話とろう文化を持つ言語的少数者
・バイリンガルろう教育の重要性
・皆さんに伝えたい事等のお話がありました。
ご自身はろう学校で口話教育を受けていたが、日本手話の必要性を感じたことや、口話では情報量が少ないが、手話で得られる情報は多いことを知り、手話を使うようになったとのことでした。

明晴学園は、日本で唯一、手話を使って授業を行っている事でも有名だ。その映像も見せて頂いた。
社会科の授業や、小学部５・６年の学級討論会で、子供達が積極的に、いきいきと手話で発言している様子が見ることが出来た。小さい頃から日本手話を使い、思考・概念・認知を育て、日本手話の重要性、手話を使う事で他のろう学校では難しい深い学びが出来ている事に驚いた。
「ろう者の文化を無くしてはいけない」「日本手話の大切さを伝える為のろう教育」「ろう者が生きやすい環境作り」等、とても興味深い内容で、お話も楽しくあっという間に時間も過ぎました。
最後に次回開催の佐世保への引継ぎ式も終わり、大会も無事に終了した。
また、今回初めて大分から来て頂いた美味しいハンバーガーの移動販売車には、ろう者が作る美味しいハンバーガーを食べたいと長蛇の列が出来ていました。1時間待ちだったそうです。

長崎県　佐世保手話サークル親ゆび小ゆび　　岩谷京子

【熊本県】

耳の日事業 in 八代

3月3日(日)、イオン八代店にて、八代地区の耳の日事業を開催しました。当日は雨交じりの天気にもかかわらず、会場は熱気むんむん。手話ダンス、手話ソング、手話教室、寸劇などを披露しました。今年の寸劇は「合理的配慮」をテーマにした劇を行いました。

八代は30年ぐらい前から手話サークルとろう協支部とが一緒になり、地域で耳の日事業を開催しています。熊本県の耳の日事業は熊本市一ヶ所でやっていましたが、県ろう協が耳の日事業は地域開催という方向性を示し、八代地域もその方針に沿って地域で開催するようになりました。耳の日事業の目的は、聴覚障害者の様々な問題、課題を社会に知らせ理解を得ることにあります。理解が深まったら、もうやる必要は無いわけで、30 年続いているということは逆に言うと社会の理解がまだまだだと言えます。これからも多分目的を達成するために耳の日事業をやり続けるでしょうね。

熊本県　八代わかぎ　前渕洋一

【福岡県】

「第４８回　福岡県ろうあ者耳の日記念集会」

２０１９年３月３日（日）アクロス福岡で開催された、耳の日集会に参加しました。

開会の言葉、主催者挨拶の後、西日本短期大学手話サークルによる「手話コーラス」と景柳書道学会会長川上景扇氏による「書道アート」のアトラクション二つが披露されました。手話サークルでは部長がネパール出身である他様々な国籍・環境の方が熱心に手話の勉強をしているということでした。ステージ上で揮毫された書道アートも、力強い筆の運びと流れ落ちる墨に迫力を感じました。

休憩を挟んだ後は、早瀬憲太郎・久美ご夫妻によるトークショーが始まりました。テーマは「デフアスリート夫婦の笑顔あふれる毎日」～２０２５年デフリンピック招致に向けて～。登場されたお二人は、「苦しい時もあるし、練習で大変な時もあるので、毎日笑顔ではなく時々笑顔・・かな？」と会場の笑いを誘い、和やな雰囲気で話し始められました。お二人は共に、自転車競技の日本代表として２０１３年ブルガリア・ソフィア、２０１７年トルコ・サムスン夏季デフリンピックに出場。憲太郎氏はサムスンで６位入賞、久美氏は両大会で銅メダルを獲得されるなど、現役トップアスリートです。更に、薬剤師である久美氏はアンチ・ドーピングの専門家である“スポーツファーマシスト”の資格を１０年前に取得、ソフィア大会では競技者としてだけでなく、日本選手団主将・自転車競技スタッフ・医事委員という一人四役を担い、主将として遠方の競技会場にも自転車で応援にかけつけました。また、医事委員としてはチーム全員の薬の管理を任されたそうです。嫌がる選

手が多い尿検査に指名されたときも、この経験は自身の強みになると喜んだ、と笑顔で話されました。他にも大会直前の怪我で苦しんだことや君が代の手話表現についてなど多岐にわたって話されました。講演を通して感じたことは、久美氏が前向きな気持ちと多大な努力を重ねて結果を残されてきた事、そしてご夫妻が互いを尊敬し、相手の立場を思いやる配慮に満ちた関係なのだということです。憲太郎氏が強く言われたことは、「我々もいずれは引退するが、啓発・普及の為今後どうしたら良いかを考えている。まだまだ女性競技者が少ないこと、ろう社会で女性の地位が低いことなど様々な問題を感じる。社会問題とスポーツを関連付けて、社会を変えていく気持ちを持って欲しい」ということでした。

福岡手話の会　Ｙ・Ｓ

【鹿児島県】

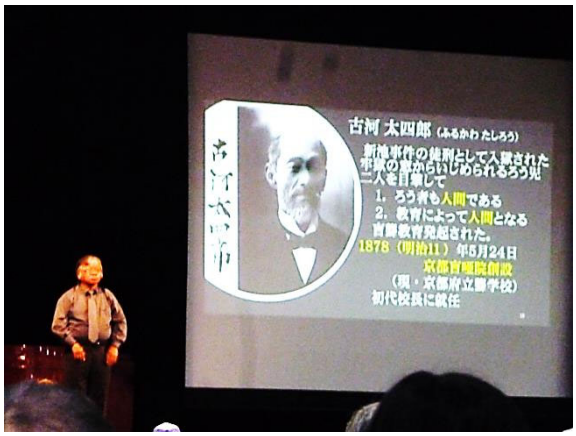
第３７回　手話で話そう県民の集い（鹿児島）

平成３１年３月３１日（日）鹿児島市中央公民館にて、「手話で話そう県民の集い」が開催されました。午前中は「連盟７０年と今後の展望～手話言語が地域を変える、人を変える～」と題して、一般財団法人全日本ろうあ連盟理事長の石野富志三郎氏の講演がありました。ご出身の滋賀県に関する美味しいもの、滋賀の手話方言など楽しいお話の他、２０１８年１０月に大津市手話言語条例が可決されるまでの苦労話など、現在手話言語条例制定に向けて頑張っている鹿児島にとって大変役に立つお話をたくさん聞かせていただきました。

昼食をはさんで午後からは、全国手話研修センターの日本手話研究所、手話総合資料室から髙塚稔氏をお招きし、「手話言語から見た手話の歴史」と題して講話をいただきました。ろう教育の歴史や手話の語源などを楽しいエピソードを交えて説明され、笑いの絶えないお話でした。

最後はお楽しみ抽選会もあり、炊飯器など１～５等の豪華賞品が用意され、にぎやかな雰囲気で終了しました。

若者から高齢者まで３００人を超える参加者があり、毎年この機会を楽しみにされている方も多く、県内のサークルの中には貸し切りバスで駆けつけるグループもありました。桜の花も満開でしたが、あちらこちらで手話の花も咲いているようでした。



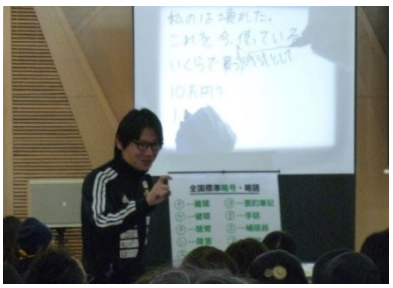
鹿児島県出水市　手話サークル　まなづる　山下留美

【宮崎県】

県 サ 連 研 修 会（宮崎県）

◎１／２７（日）県サ連研修会
メインテーマ「発見！探検！県サ連！！！」
日　時　平成 31 年 1 月 27 日（日）　１０：００～１５：００
場　所　県電ホール
参加者数　８５名

◆１／２７（日）、県サ連研修会が開催されました。午前中は、「『聞こえない世界を知る』～サークルとの関わりも含む～」と題して、ろう者サッカー男子日本代表監督　植松　隼人氏より講演をいただきました。ご自身の生い立ちや日頃の生活の様子などを通して、「聞こえない」とはどういうことなのか、とてもわかりやすくお話をいただきました。

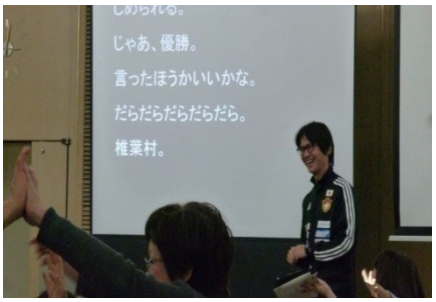


　また、ろう者サッカー日本代表に就任されるまでの歩みや、これまでの活動についてもデフリンピックの写真や障害者サッカーの映像などを交えてお話しいただきました。たいへん気さくなお人柄で、公演中は参加者の笑い声があふれる楽しい講演会でした。

◆午後の部では、まず県サ連加盟５サークルによるサークル紹介が行われ、日ごろなかなか知ることのできない各サークルの活動状況を知る機会となりました。その後、「行きたくなる宮崎の観光地案内コンテスト」と題してグループワークを行いました。午後はグループに分かれ、くじで決められた県内の各市町村について、「手話で観光案内をしよう」というテーマでのグループワークを行いました。これは清武手話サークルで、来る２０２０東京オリ・パラや宮崎国体に向けて手話で観光案内をするという学習を行っているものだそうです。

いざ話し合いを始めると、3 分という制限時間内でいかにわかりやすく、かつ魅力的に伝えるかと、どのグループも苦戦している様子。発表では知っているようで知らなかった各地域の魅力を知ることができました。

終日の研修会でしたが、参加者の笑顔の絶えない研修会となりました。



【宮崎県　延岡手話サークルわかあゆ　田上雄太】

第２７回（令和元年度）九手連研修会

１　日時：令和元年６月２３日（日）１０：００～１５：００
２　会場：長崎県総合福祉センター（長崎市茂里町３－２４）
３　内容：「防災・減災について考える（仮）」
〇午前の部　講演「平成 29 年九州北部豪雨における地元手話の会の支援活動報告」
講師：福岡県手話の会連合会会長　内堀　義喜氏
〇午後の部　複数の県（大分県及び長崎県）からの事例報告
大分県・・防災マニュアル作成の経緯等
長崎県・・防災、減災への取組（防災士・７団体の取組）

編集後記

「はっけん」の作成にあたり、各県の皆様方の原稿の執筆のご協力を頂き有り難うございました。なんとか無事に発行できることとなり、嬉しく思います。

発行責任者　池尻和吉　　発行年月　平成 31 年 4 月
事務局長　森保夫
広報担当　町田京子（大分県）